

中学生の意識調査

—関東と関西を比べて—

42期生

I テーマ設定の理由

小学校のころまで関東に住んでいたため、関東と関西の両方の友達を持つ機会に恵まれた。手紙や会った時の会話などからも具体的にこれというほどでもないが意識や意見について違いを感じていたため、それについて調べてみようと思った。方言についても興味があったが、方言以外のことで相違点をさがしたいと思ったのでこのテーマにした。

II 研究方法

- (1) 文献 いろいろな人の日本人についての著書から、関東人、関西人の人間性の違いをその人の説としてまとめていく。
- (2) アンケート 関東・関西、共に50人ずつアンケートをとる(男女各25人)
その結果から、関東と関西はどう違うか。また、文献ではどのような所がアンケートと共通していたかなどを調べる。

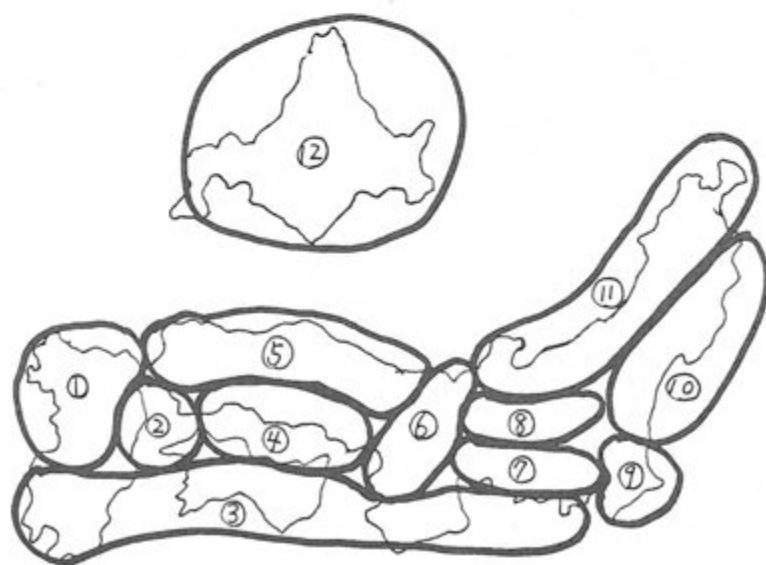
III 研究内容

1 日本人の12のタイプ

樋口清之という人類学者によれば日本人は性格、気風などが土地から12のタイプに分けられるという。関東と関西との比較と共に参考のため他各地の区分のしかたも書いておく。

(1) 名称

- ① 西九州型
- ② 東九州型
- ③ 南海型
- ④ 内海型
- ⑤ 山陰型
- ⑥ 畿内型
(一般にいう関西、アンケートをとった場所)
- ⑦ 東海型
- ⑧ 中部山岳型
- ⑨ 関東型
(一般にいう関東)
- ⑩ 東・東北型
- ⑪ 西・東北型
- ⑫ 北海道型



—畿内型の性質—

今の大阪、奈良、京都、滋賀あたりで歴史的にも日本の中心であり、もっとも安全な農業地帯という事が文化の栄えた支柱になっている。また、畿内型の人が移民したのが東北の人達といわれている。秋田美人、津軽美人、新潟美人、庄内美人というのは、みな畿内方人間の移民の子孫である。東北地方に佐藤、斎藤など藤のつく姓が多いが、これは畿内型の系統であることを表している。京都という人や物の交流の中心をもち、さらに西日本と東北地方との通路の要になったため、畿内型はさまざまな要素をもったタイプでまとめるのは難しい。体質的には丸ポチャで皮下脂肪の厚い人と、朝鮮型の細身で低血圧という人の2つの型があり、世に京都美人というのは細身のほうである。丸ポチャの方が東北に移民して秋田美人などになった。いわゆるこけし型の美人である。

—関東型の性質—

「関東型」は千葉県の北半分から関八州のほとんどが含まれる。南海型の終点と山岳型が直接にくっつく地域で、まざりあったところからまた新しい地域的要素をもったタイプが生まれた。関東平野は元来水田が少なく、畑地労働に依存していたことなどから生産が低く、反抗的で賭博好きな人間が多い。性格は荒っぽい部分が多く自己解放自己主張が強いことなどがあげられる。しかし、現在の東京周辺には地方出身が半分以上をしめ、もっとも地方色というのがないのが東京に住んでいる人達といえる。

(2) 地域的差異はなぜ生まれたか。

なぜこの地続きで広くもない日本という国でたくさんの地域的差異が生まれたのか、2つの大きな原因があるといえる。

① 海流や貿易風、季節風が吹きよせる場所がきまっている。

- ・南方からくる暖流……日本を一周せずに主に太平洋側だけ流れる。
- ・北からのオホーツク寒流……東北地方の東側だけ流れる。

↓

日本に人や文化をはこんでくるエネルギー = いつも決まった場所に到着

② 人や物が漂流すると日本の地形が非常に遮断的であるためにそこに定住する。

↓

地域的生産に執着する。

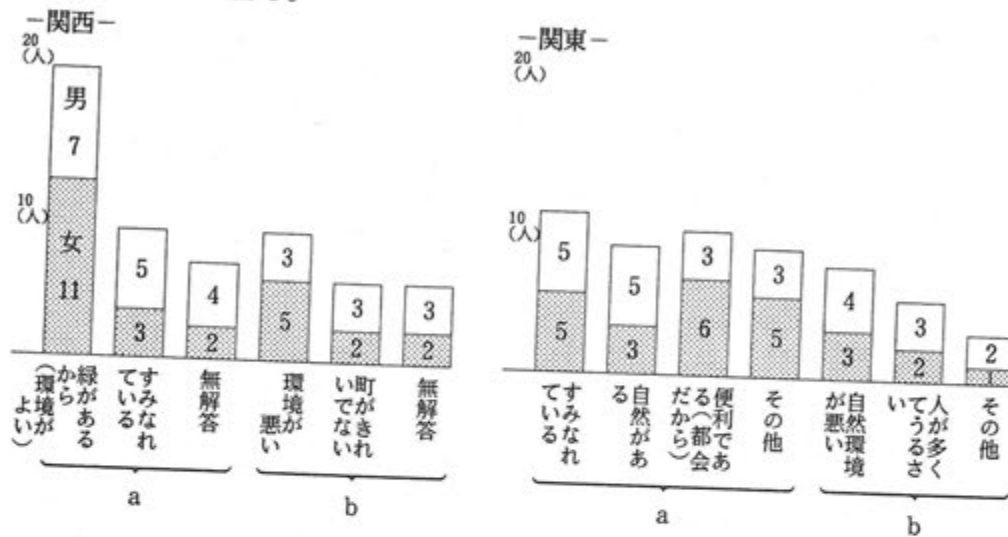
その他もろもろの原因もあるがこの2つから地域的差異ができたといっても良い。

2 アンケート集計

両地方でとったアンケート結果のうち、ちがいの大きな質問を特にグラフ化してみている。

(1) ふるさとへの意識

Q: 現在あなたの住んでいる町を好きですか? a. はい b. いいえ
又、その理由も。



予想では関西の人の方が自分の住んでいる町を好きだと思っていたが、はずれて関東の方が多かった。理由では、予想以上に関西の人に「緑が多いから」というのが多く、関東では「たいがいのが手に入って便利」といった理由をあげている人がいた。きれいな理由の中に、関西では「柄の悪い人が多い」とか、関東では「人が多すぎる」などの意見があったのがおもしろかった。

(2) 食べ物について

Q: 一番好きな食べ物はなんですか?

関東と関西のちがいについて

主食もの(メン類・おすし) → 関東の人が圧倒的多数であった。関西で多かったうどんが関東の人にはほとんど見られなかった。

おかずもの → 両地方とも男子の肉料理の支持が多かった。が、どちらかといえば、関東の人の方が魚料理などレパートリーに富んでいた。

おかし類 → 女の子が大半をしめていたが中には男子でケーキと書いてる人もいておもしろかった。

くだもの類 → 両地方とも、女子に人気があり中でもメロンが多かった。

その他 → 関西の人のたこやき、お好み焼きが圧倒的に多かった。

結構、両地方で食べ物の好みというものは違うなど、あらためて感じた。

Q: 郷土料理といわれたら一番に何を思い浮かべますか?

この質問にはとまどった人が多かったらしく、無解答や漠然となべ物と書いてる人が多かった。はっきりした解答では関西で柿の葉ずしなど、関東ではほうとう(うどんのもっと太く短いものをみそで煮込んだもの)などがあつた。

Q: 家族で月平均何回くらい外食しますか?

関東では1~2回が多くついで2~3回、関西では0~1回が多くついで2~3回と平均では両地方ともたいして変わらなかった。

Q: 何をよく食べに行きますか?

関西では洋食が1番多く、和食、中華の順で、その他ではお好み焼きなどが多かった。関東では洋食、中華、和食の順で、両地方を比較すると、関西の人の方が洋食か、おすしなどにかたよっていた。

(3) 言語について

Q: 自分のしゃべっている言葉は好きですか? a. 好き b. 嫌い
その理由()

この質問ではそれほど差は出ないだろうと思っていたが、両地方では関西の方がaが圧倒的に多かった。

Q: (関東の人に) 関西弁は好きですか? a. 好き

(関西の人に) 東京弁は好きですか? b. 嫌い

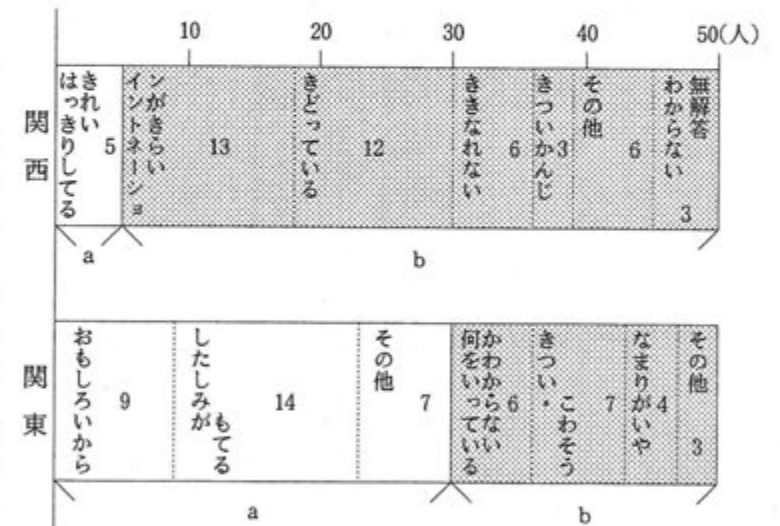
その理由も

予想どおり、

bの人が関西には非常に多かった。関西の中でも女子に特に毛嫌いしている人が多かった。

関西の人の理由では、全体的に東京弁=共通語への意識が感じられる。関東の人の理由では、おもしろいとい

うのがあり、関西弁からまんざいを想像する人が多いのを示していると思う。



(4) 親について

Q: 親がよく怒るのはどんな時ですか?

この質問では、テスト・成績に関して、という答が関西にとっても多く、関東の倍はいた。他は大差なく、多かった答では「親が反対する事をした時」、「反抗した時」などがあつた。

Q: 大人に反発を感じたのはどんな時ですか?

この質問では両地方に大差はみられなかったが、項目としては「うるさい時」、

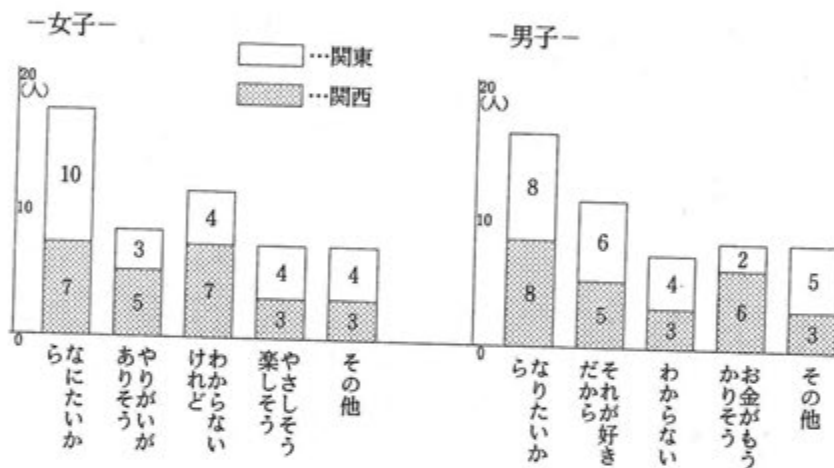
「自分勝手な時」、「理屈にならない事をする時」、「子供扱いする時」などと両地方に共通していて、中には、こと細かに例をあげて書いてくれる人もいて、なるほどと思う意見もあり、おもしろい結果がでた。

(5) 将来について

Q：将来どんな職業につきたいですか？ 又、それはなぜですか？

職業については女子は「きめてない」という解答が多く、他はキャリアとよばれる仕事が多く、「奥さん」という人は1人もいなかった。(これはちがいをはっきりみるため男女別に分類した) 男子では現実的にもものを見てる人が多く、会社員、医者、個人業などに人気があった。

▼理由について



ならないから、好きだからといった理由はうなづけるが、やさしそう、楽しそうといった発想は女の子らしい思考だと思った。「お金がもうかりそう」という理由が関西に多いのは、やはり大阪人らしい考えだと思った。その他では男子で「父の後をつぐ」などがあつた。

Q：将来、結婚したいと思いませんか？ 又、その理由

「はい」と答えた人が半分以上で、両地方とも「いいえ」と答えた人は女子の方が多かった。「はい」と答えた理由では、女子には「1人ではさびしい」などが多く、男子では「家事をやってもらえる」など、奥さんを家事・手伝いと思っている人も少なくなかった。「いいえ」という人の理由では男女共通で「自由に行うことができる」など結婚するのは楽でないと考えている人達であった。

(6) 習いごとについて

Q：塾に行っていますか？ 又、必要と思いませんか？

この質問は、関西の人に多かったのが、塾に行っていないながら必要と思っていない人で、矛盾した考えを持っている人が多く、親などに言われて行っている人が多いのではと考えられる。

(7) クラブについて

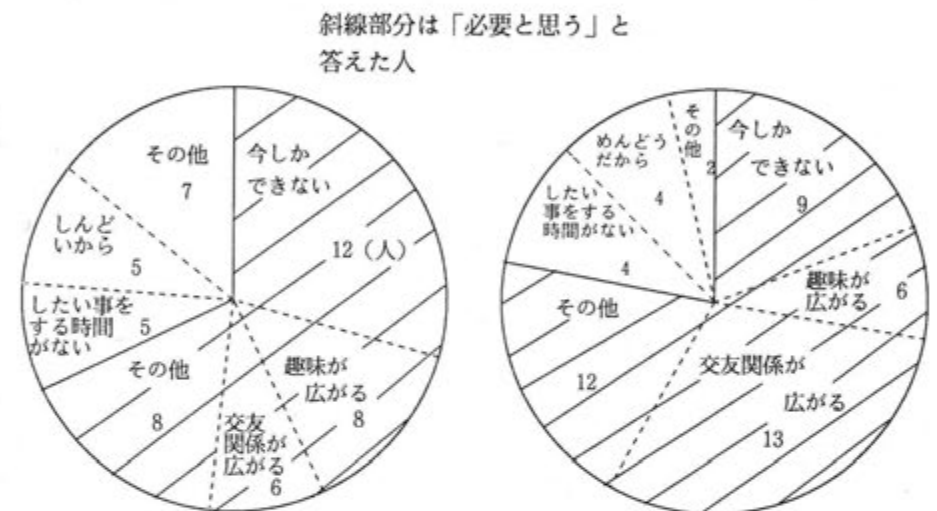
Q：クラブというものが必要と思いませんか？

「思う」といった人は関東の人の方が多く、関西のアンケートはうちの学校でとつた。全クラ制というのが、生徒のクラブへの思い入れを小さくしてるのではとこの結果からは思える。

Q：(上の質問の答に対して) どうしてそう思うのですか？

- 関西 -

- 関東 -



理由は両地方とも同じようなものだが、クラブに先輩や後輩との交友関係を求めるのが関東地方に多かったのに注目したい。クラブを上手に社交場に使ってる人が関東に多いと思う。「必要と思う」と答えた人のその他の解答では、「(運動部で) 体を動かしたい」などがあつた。

IV まとめ

今の日本はどこの人でもすぐ会え、日本中に同じテレビ番組があるのに、方言以外にも、こんなに意識の違いがあるのがわかつた。またおたがいの地方を見る目がだいぶ違つて、それぞれきれいなところ、好きなのところもあるのがわかつた。

V 反省・感想

一言でいって、やって良かったと思う。アンケートの集計などでもおもしろいところもあつたし、考えさせられる意見もあつた。私みたいに両地方を知っている人間がおたがいに生じる偏見みたいなものを消していかななくてはいけないと思つた。

VI 参考文献

- ・日本人の知恵の構造
- ・東京生活歳時記
- ・大阪町人論

著者：樋口清之
社会思想社編
著者：宮本又次